

# 秦野市青少年指導員だより

第51号

発行/秦野市青少年指導員連絡協議会

編集/秦野市青少年指導員連絡協議会広報委員会



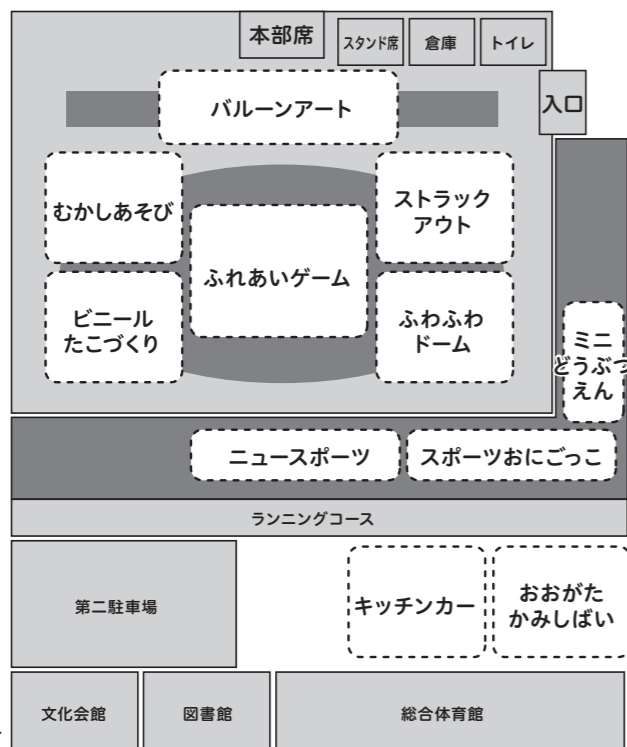
子どもに大人気!ミニ動物園

私たち青少年指導員は、未来を担う子ども達の健全な育成を支援するほか、地域が取り組むさまざまな行事や活動も支えています。  
コロナ禍から四年ぶりに開催された、今年度の活動の一端を紹介します。

## 四年ぶりに開催! 地域と協働した活動

### タイム スケジュール

- 10:00~15:00  
ふわふわドーム  
バルーンアート  
むかしあそび
- 10:00~14:15  
ニュースポーツ  
・わなげ  
・あきかんつり  
・オセロ  
・まとあて  
・かんたいりよくテスト
- 10:00~14:00  
ストラックアウト  
ふれあいゲーム  
ビニールたこづくり
- 10:00~12:00  
13:00~14:00  
ミニどうぶつえん



令和五年五月五日にカルチャーパーク陸上競技場等で、第四十五回子どもまつりが開催され、また、水無川河川敷では、四月二十九日~五月五日まで、約二百匹の鯉のぼりが大空を泳いでいました。  
家族みんなで楽しめるさ

## 楽しいよ!子どもまつり

さまざまなイベントが用意され、毎年多くの親子でにぎわっています。  
会場では、ビニール凧づくりや昔遊びの体験、ふれあいゲーム、スポーツ鬼ごっこ、ニュースポーツ等、様々な企画が行われました。



開会式の様子



再会の喜び

## 「青少年相互交流事業」 秦野・韓国坡州 交流キャンプ

ひろげよう友達の輪 つなげよう交流の思い

九月二十三日(二十五日)に友好都市・韓国坡州(パジュ)市と秦野市との「青少年相互交流事業」が開催されました。両市の中学生を対象に、表丹沢野外活動センターにて行われた交流キャンプに、青少年指導員はその前半の二日間、参加協力しました。

坡州の子ども達が到着するまでの間、先に集まっていた秦野の子ども達に「今日はじめて会うって人は居るの?」と尋ねたところ、「先月、坡州でやったイングリッシュキャンプの時に一緒だったんだよ」との答えでした。その言葉のとおり、両市の子とも達は再会できたと喜びを大いに分かち合っていました。

再会の喜びも早々に、開会式は韓国語の通訳が入ったので滞りなく進んだのですが、問題はここから先です。「さて、どう子ども達と会話しようか」と悩みました。韓国語など当然話せず、英会話とは縁遠いので咄嗟に英単語が出る筈もありません。しかし、それは杞憂に過ぎなかったです。開会式が終わると早速、野外炊事でカレーを作ったのですが、始まってみれば、韓国語・英語・カタコトの英単語・日本語・ジェスチャーが入り乱れ、また、スマホの翻訳アプリという文明の利器の力も借り、より活気に満ちた野外炊事となりました。

こうして出来上がったカレーはまた格別で、「スタッフ用にしたカレーよりこっちの方が美味しかったよ」と翻訳アプリを使い伝えたところ、三ヶ国語が勢いよく同時に飛び交う返事と共に、キラリと魅せてくれた笑顔がとても印象的で、今でも思い出されます。

野外炊事でお腹を満たした後はキャンプファイヤーです。コロナ禍のため久しぶりだった事もあり、所々おぼつかない場面もありました。それもまた一興で、終始和やかな雰囲気の中、初日を終わりました。

二日目のアクティビティは、題して「バルーンアートファッションショー」で



キャンプファイヤー



バルーンアートファッションショーの様子

トファッションショー」です。剣や花などの基礎的な作り方をレクチャーした後、それを基に、子ども達が独自の発想で作ったバルーンを身にまとい、お互いに披露しました。その姿をみて、発想の柔軟さに感心しきりでした。  
わずかな時間ではありましたが、楽しい思い出として記憶の片隅に残ったのであれば、幸いです。

### 広報委員会

- ・吉田トシ子 (西・上 委員長)
- ・田方淳一 (大・鶴 副委員長)
- ・安居院将文 (本町)
- ・竹中金之助 (南)
- ・金沢暁 (南)
- ・保科晴雄 (東)
- ・武井好春 (東)
- ・渡邊正二 (北)
- ・田方明子 (大・鶴)
- ・友松泰則 (西・上)

第五十四回神奈川県青少年指導員大会が、十一月十二日(日)に、「すべての青少年が成長・活躍できる未来へ」をテーマに松田町生涯学習センターにて開催されました。  
長きにわたり青少年指導員として尽力なされた功績を讃えられ、松本たかみ氏(西・上地区/八期十六年)が優良指導員表彰を受賞されました。  
おめでとうございます。



### 神奈川県 青少年指導員大会





一九八四年十月、秦野市と諏訪市の姉妹都市が締結され、毎年、交互に開催する青少年交流キャンプが二〇二三年七月十五日〜十六日、表丹沢野外活動センターで開催されました。

### 大自然の中、子ども達と「火起こし」で最高のカレーライス」にチャレンジ!

## 秦野市・諏訪市 交流キャンプ

両市の小・中学生の交流を通じて友情と連帯を深め、社会性の育成を目的として、秦野市子ども育成課が子ども会育成連絡協議会（子連）と青少年指導員連絡協議会（青指連）に協力依頼している行事の一つです。今年度は秦野市が招き、諏訪市からの引率はスタッフ・サポーター七名、諏訪小中二十名、男女比は男子七名、女子十三名。秦野からスタッフ二十名。秦野小中十五名、男子十二名、女子三名の総勢六十二名が参加しました。開会式後の自己紹介と班ごと輪になってお弁当タイム、アイスブレイクで楽しく緊張をほぐしてチームワークを高めました。子ども達は初めて会った他の子ども達とすぐに打ち解けてました。野外炊飯の前にチームワ

イクの見せ所の火起こし（舞い切り式発火器）青少年指導員会長の自信作）で火起こしレクチャーを受けて各班で試行錯誤しながら、かまどへ一直線に全速力で火種を入れ、無事に着火、子どもがコツを掴むのは早く、周りの大人の方が大きな声で夢中になりすぎてしまいました。男子は火起こしとご飯、女子はカレーの下ごしらえと調理、自然と役割分担ができていました。暑い中、最高の旨いカレーをワイワイイガヤガヤ全員で食します。



モルック



プレイパラシュート



火起こし

班ごとに野外炊事

キャンプファイヤー

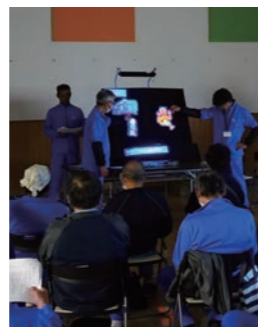
カレーライスの味は?

スタッフの大人達も子ども時代を思い出し話に花が咲いていました。夕食作り、キャンプファイヤー、花火と自然を満喫する活動に挑戦でき、新しい事を知ることができ、それをきっかけに話題が弾んだり、非常に楽しい企画でした。お互い気を使ったりする必要がない仲間と良き交流ができ、素晴らしい思い出になったようです。開放的な雰囲気の中、楽しい時間はあっという間に経過し、時計の針は二十時を回っていました。

令和五年度は二回の青少年指導員全体研修会が開催されました。六月二十四日（土）遊具を使用した遊び体験・プレイパラシュート・ストラックアウト・サッカーターゲット・アイスブレイク体験・パネルシアター説明お疲れさまでした。



アイスブレイク体験



パネルシアター説明



サッカーターゲット体験

### 全体研修会



くつ飛ばし

五月五日、朝から晴れ渡ったカルチャーパーク、四年ぶりの「子どもまつり」です。西上地区青少年指導員は、

### シャトルラン

くつ飛ばし  
履いている靴を飛ばし、その距離を測ります。  
▼Uターンドリブル  
ボールをキックしながら走り、もどって来るまでの時間を計ります。  
▼なわ跳び  
なわ飛びをしながら走り、もどって来るまでの時間を計ります。  
▼シャトルラン  
二十メートルの距離をだんだん早くなっていく音楽に合わせて往復します。何回戻って来られるかを計ります。

### ふれあいゲーム

毎年そば・うどん・ジュースなど模擬店を担当していましたが、今回はキッチンカーが出店するため、模擬店は無しとなりました。西上地区青少年指導員は陸上競技場内の各イベントにサポーターとして参加しました。その中の一つ「シャトルラン」はゲーム性のあるほかの種目とはちよつと違う体力テストのような種目です。青少年指導員何人かで、リハーサルを開始します。リズムに合わせて二十メートルの往復持久走に挑戦しましたが、三往復で息が切れリタイア。見た目以上にきつい種目でした。開始時刻になり、子ども達がやってきましたが、機材トラブルで音が出ません。急遽ラジカセを調達し一時間違えて開始となりました。ところがラジカセの音が小さく、走者に届かないではありませんか。青少年指導員みんなで手拍子を送りました。小さい子は、お母さんお父さんと一緒に走ります。芝の上を走るのが本当に楽しそうです。子どもがリタイアしても最後まで走るカッコイイお父さん。四回も



シャトルラン

五回も挑戦してくれた中学生。走った後は、みんないい顔をしていました。

### 大型紙芝居

大型紙芝居は総合体育館前の（けやき広場）にて十一時から「水無川と弘法山」と「つるの恩返し」を、十二時半から「焼き飯ころころ」と「ねずみの嫁入り」をそれぞれ上演しました。広場には様々なお店やキッチンカーが揃い、他の会場と同様に大変な賑わいを見せておりました。飲み物や食べ物を手にとり休場所を探している方々に大型紙芝居の客席として広げたブルーシートを休憩場所として開放し、飲食の後はそのまま大型紙芝居の観客となつ



て頂くWINWINの関係構築で客席（休憩場所は満員御礼状態でした。いざ上演となりますと三六〇度のオープン会場の為、声が風に流されてしまいお客さんの所までセリフが思う様に届きません。そこで、声優達のフォーメーションを横一列から客席を四方から囲い込むドルビーサウンドシステムへ変更してセリフが届く様になりました。しかし自然の力は強大で紙芝居の場面によっては無声紙芝居になってしまいました。無声紙芝居の時、お客さんの反応は、セリフの言い回しや絵を引くタイミングとのズレもアナログな紙芝居の味として終始笑顔を見せてくれていました。大型紙芝居サークルの活動は子ども達に秦野にまつわる民話や、定番の日本昔話をアレンジし大型の紙芝居として楽しんでもらっています。

### ミニ動物園

放し飼いになっているやぎや小動物を間近で見ることができました。ハムスターやうさぎは抱っこでき、初めは動物に戸惑う子ども達ですが、すぐに慣れてました。うさぎを抱き上げられない子には指導員が膝の上に乗せてあげると、素敵な笑顔が返ってきました。入場者五百七名（うち子ども二九六名）と大盛況でした。

